セゾンマルチシリーズ　据付説明書

FDASP 1401TLX～2801TLX, 1401LX～2801LX

PSB012D837

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気工事の方法は、電気配線工事説明書（室内ユニット付属）をご覧ください。
室外ユニットの据付方法及び冷媒配管工事の方法は、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

〈お願い事項〉
○取扱説明書を見ながら、お客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご説明ください。
○長時間使用しない時は、電源スイッチを切るようにお客様にご説明ください。
　電源スイッチを入れたままにしておきますと、クランクケースヒータ等に通電されエアコンを使用しなくても電力を消費することになります。

1 機体の確認

1. 本機は空冷式パッケージです。冷房能力・暖房能力などについては吸込グリル内右下の装置銘板をご覧ください。
2. 本機にダクトをとりつけたい場合は7項を参照ください。
3. 冷媒配管、ドレン配管、電気配線は右側とり出しを標準として出荷しています。

2 運搬・搬入

1. 搬入の際45°以上傾けないでください。
2. ワイヤーロープで吊り上げる場合は本機の質量にみあった太さを選び木枠下面にかけてください。

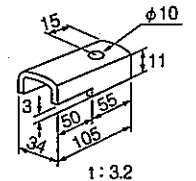
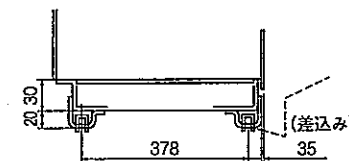
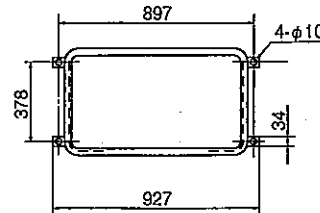
3 開梱

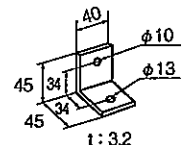
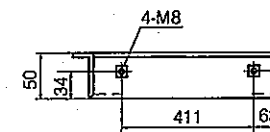
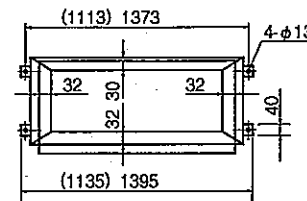
1. まず前面をとりはずします。次に下面との結合をはずします。後面側面は一体のまま後方へとりはずします。
2. 梱包材はきちんと処置してください。（子供が遊ぶと危険です。）

4 付属部品

1. 室内ユニット吸込グリル内に次のものが入っています。確認してください。
　① 付属品セット　1セット
　② 愛用者書類セット　1セット

5 据付

1. 据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
　●冷風または温風が十分行きわたる所。
　●ドレン排水が完全にできる所。ドレン勾配のとれる所。
　●吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤操作しない所。
　　ショートサーキットしない所。
　●直射日光のあたらない所。
　●周囲の露点温度が23℃以下、相対湿度80％以下の所。
　（本ユニットはJIS露付条件にて試験を行ない、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。）
　●エアコン本体・リモコンは、テレビやラジオなどから1m以上離してください。
2. 据付けようとする場所の強度を確認してください。
　●ユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。
　●床が共鳴するおそれはないですか、必要に応じ補強・防振等をしてください。
3. 点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。
　●サービススペースとして前面側を1m以上あけてください。

固定金具（兼運搬用）

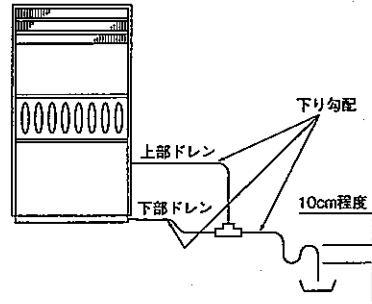
224, 280の場合
（　）内数値は224を示す

固定金具（兼運搬用）

6 配管工事

(冷媒配管)

配管の取出し位置については、[9]項を御覧ください。
冷媒配管は室外ユニットの据付説明書を見て施工してください。

(ドレン配管)

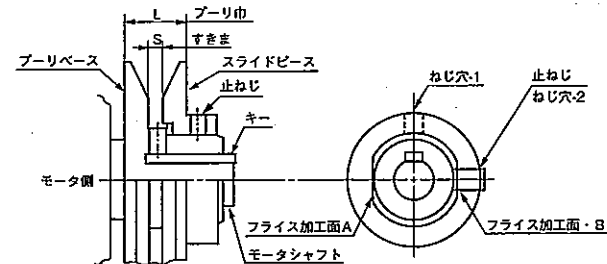
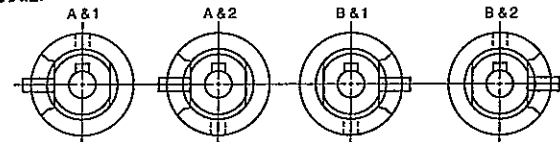
○配管施工後、排水が良好に行なわれていることと、水漏れのないことをご確認ください。
●室内およびユニット内にあるドレン配管は必ず保温してください。
配管工事に不備があると、水漏れし家財等を濡らす原因になります。
●ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力を加えないように注意して行い、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。
●ドレン配管は下り勾配（1/50～1/100）とし途中山越えを作らないようにしてください。
●ドレン配管の出口は臭気の発生する恐れのない場所に施工してください。

⚠警告

●ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスの発生する排水溝に直接入れないでください。
室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。

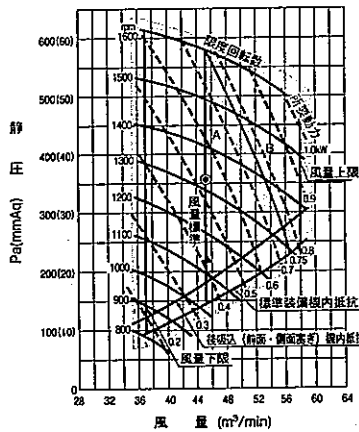
7 ダクト工事

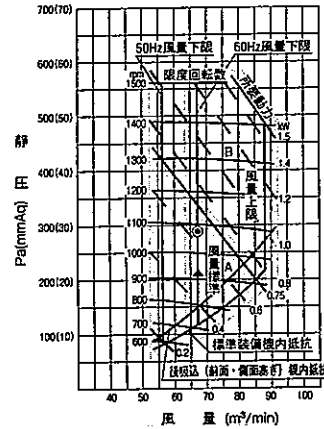
1．直吹きタイプ
① 送風機切換コネクタ（上部前面カバーの内側にある）を、高速にすることにより機外静圧 50Pa（5 mmAq）程度がとれます。
② ダクトは天板をはずして送風機台へ直接とりつけてください。
③ 両吹き（一部ダクト吹き）の場合は天板打出し部を穴明けしダクトをつないでください。

2．ダクトタイプ
① ダクト設計に基づき（機外静圧をこえないよう）施工してください。
② ユニットとダクト、ダクトのサポート等は必要に応じて防振キャンバス、防振ゴム等により接続・支持し振動の伝播及び騒音の増幅等にならないよう施工してください。

3．回転数を変更する場合は次の手順に従い実施してください。（ダクトタイプのみ）
ピッチ径はプーリベースとスライドピースのプーリ巾（L）を変えることにより調整できます。
① スライドピースの止ねじをフリーにして、プーリ巾（L）＝18mm（すきま：S＝0mm）の状態から１／４回転単位で回転させプーリ巾（L）を広げて行き所定の位置にします。
② スライドピースの止ねじ穴２ヶ所の内どちらかが必ずプーリベースのフライス加工面（２ヶ所の内どちらか）と合うようにセットし止ねじ（必要に応じ移動）を締め付けてください。〔締付トルク 12.5N･m（125kg･cm）〕
③ 最後にファンプーリ、モータプーリのＶ溝のセンタ合わせは、ファンプーリ側で行ってください。
尚、調整後、止ねじは確実に締付けてください。〔締付トルク 12.5N･m（125kg･cm）〕
④ ファンプーリとモータプーリの中心を合わせ、ファンベルトの張力を調整してください。

上図の4通りから調整位置に合せ1つ選ぶこと。
（必ず止ねじは、フライス加工面で締めること。）

140ダクトタイプ

A：0.75kW標準装備電動機使用範囲
B：1.5kW電動機使用範囲
出荷回転数 ▲……50Hz（1120rpm）
◎……60Hz（1310rpm）

224ダクトタイプ

A：0.75kW標準装備電動機使用範囲
B：1.5kW電動機使用範囲
出荷回転数 ▲……50Hz（910rpm）
◎……60Hz（1065rpm）

280ダクトタイプ

A：1.5kW標準装備電動機使用範囲
B：2.2kW電動機使用範囲
出荷回転数 ▲……50Hz（1040rpm）
◎……60Hz（1235rpm）

可変プーリによる送風機回転数調整範囲

形式	スライドプーリまわし回数		0	1/4	1/2	3/4	1	11/4	1-1/2	1-3/4	2	2-1/4	2-1/2	2-3/4	3	3-1/4	3-1/2	3-3/4	4	4-1/4	4-1/2	4-3/4
	プーリ巾L(mm)		18	18.4	18.8	19.1	19.5	19.9	20.3	20.6	21	21.4	21.8	22.1	22.5	22.9	23.3	23.6	24	24.4	24.8	25.1
140	送風機回転数	50Hz	1250	1235	1220	1205	1185	1170	1155	1135	1120	1105	1090	1070	1055	1040	1020	1005	990	970	955	940
		60Hz	1465	1445	1425	1405	1385	1365	1345	1330	1310	1290	1270	1250	1235	1215	1195	1175	1155	1135	1115	1100
224		50Hz	910	900	890	880	865	855	845	835	825	815	800	790	780	770	760	750	740	725	715	705
		60Hz	1065	1050	1035	1025	1015	1000	985	975	960	950	935	925	910	900	885	875	860	850	835	825
280		50Hz	1040	1030	1020	1010	1000	990	980	965	955	945	935	925	915	900	890	880	870	860	850	835
		60Hz	1235	1220	1210	1195	1185	1170	1160	1145	1135	1120	1105	1095	1080	1070	1055	1045	1030	1015	1005	990

ファンベルトの張力調整・点検

ファン回転数を調整した時、および試運転終了後に調整してください。

(1) ベルトが正しく取り付けられていることを確認する。

●ファンプーリとモータプーリの中心は合っていますか。

(2) 鳴きやすべりがある場合はベルトのプーリ接触面の磨耗・損傷・破損およびプー理の傷付きを点検する。

(3) ベルトテンションゲージを使用して、ファンプーリとモータプーリ間のベルト中央ベルトテンションゲージを当て、Vベルトの張力を測定する。

(4) たわみ量調整
①アジャストナットBを緩める。
②アジャストナットAを締め付けたわみ量を調整する。
③アジャストナットBを固定する。
④ベルトの張力を確認する。

●ベルトは張り過ぎないよう基準値を確認してください。

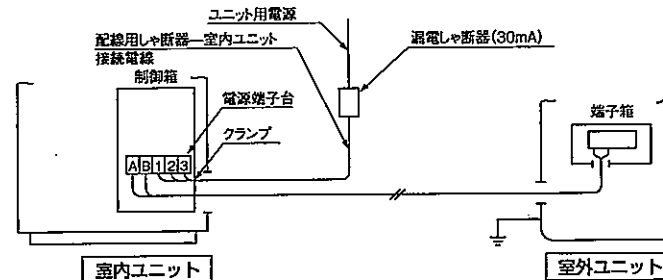
張　力(kgf)	140, 224形	280形
点　検　時	22～32	25～38
新品取付時	27～37	28～43

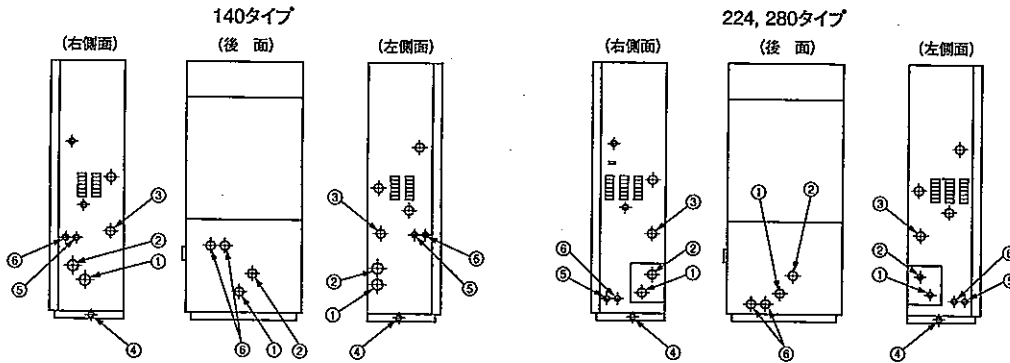
※出荷時の場合
(プーリサイズ・Vベルト変更により変わります。)

ベルトメーカー
バンドー化学㈱：バンドーVベルトレッド
三ツ星ベルト㈱：レッドラベルVベルト
ベルトサイズ
140形：A25×1
224, 280形：A33×2

8 電気工事

1．電気配線は左右及び後方の3方向いずれも取り出しが可能です。配線の取出し位置については 9 項を御覧ください。

注) 1．室内・外ユニットに出入りする電線は必ずクランプにて固定してください。
2．接続電線は〒マークのあるものを使用し、各端末は絶縁スリーブ付丸形圧着端子を使用して確実に締付けてください。
3．アース端子は室外ユニット1ヶ所に準備されております。必ず接地工事を実施してください。
4．その他、電気工事にあたっては電気設備技術基準、内線規程および当社発行の技術ガイドブック等に基づき施工してください。
5．運搬中に端子、クランプ、ネジ等が緩む場合がありますので、配線作業が終わりましたら念のため各部に緩みなきことを確認してください。
※詳細は電気配線工事説明書をご覧ください。

9 配管配線取出し

1. 配管、配線の取出しは下図に示す位置より行ってください。

番号	名 称	寸 法		
		140	224	280
1	冷媒配管接続口(液配管径)	φ9.52(フレア接続)	φ9.52(ろう付)	φ9.52(ろう付)
2	冷媒配管接続口(ガス配管径)	φ15.88(フレア接続)	φ19.05(ろう付)	φ22.22(ろう付)
3	上部排水口	25A	25A	25A
4	下部排水口	20A	20A	20A
5	電源取入口(外板穴径)	φ30	φ30	φ30
6	予備電源取入口(外板穴径)	φ30	φ30	φ30

工事完了後、これだけは再チェック願います。

チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外ユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない、暖まらない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない、暖まらない	

セゾンマルチシリーズ　電気配線工事説明書

PSB012D810A

FDASP 1401TLX～2801TLX, 1401LX～2801LX

電気配線工事説明書

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

① 電気配線取り出し穴位置および電気配線接続

電源配線

⚠ 警　告

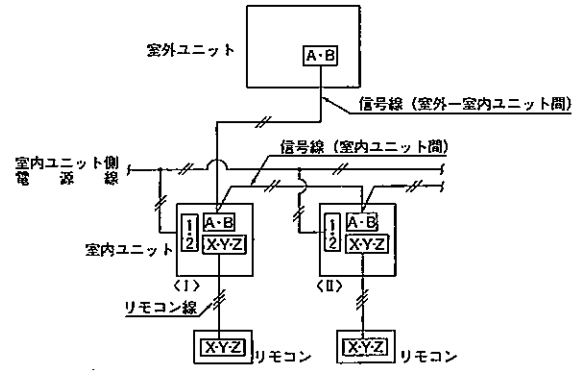
- ●下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又は過熱、ショートによる火災の恐れがあります。
- ●電源配線の仕様・サイズの選定は、「電気設備に関する技術基準を定める通商産業省令」、「内線規程」に従ってください。また、接続部の緩みがないようにしてください。
- ●機器毎に設定された過電流及び漏電遮断器（感度電流30mA）を設置すること。
- ●専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないこと。併用した場合、ブレーカー落ちによる2次災害が生じる恐れがあります。

⚠ 注　意

- ●8 mm²を超える太さの配線は接続不可能です。8 mm²以上をご使用の場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐するようにしてください。
- ●信号線用端子台に200Vを接続しないでください。
- ●電源は工事が完了するまで入れないでください。

○電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。

1）電線は銅線以外のものを使用しないでください。
2）電源は、室外ユニット・室内ユニットの夫々別電源。
3）電気ヒータ（別売品）は含んでおりません。
　注）電気ヒータを組込む場合は、電源仕様・配線仕様および配線本数が異なりますので、ご注意ください。
4）同一系統内の室内ユニット電源は、必ず全て同時ON、同時OFFになる様にしてください。
5）信号線と電源線の接続を間違えますと全ての基板が焼損してしまいますので、ご注意ください。

配線系統図〔室外・室内ユニット接続要領〕

電源仕様

(50／60Hz)

室内ユニット合計電流 (A)	配線用遮断器定格電流 (A)	漏電遮断器		
		定格電流 (A)	感度電流 (mA)	動作時間 (sec)
7以下	20	20	30	0.1以下
11以下				
12以下	30	30		
16以下				
19以下	40	40		
22以下				
28以下	50	50	100	

FDAS

配線仕様

(50／60Hz)

室内ユニット合計電流 (A)	電源用配線太さ (mm²)	配線こう長 (m)	信号線太さ 室外－室内 (mm²)	信号線太さ 室内－室内 (mm²)
7以下	2	21	0.75～2.0 ×2本	0.75～2.0 ×2本
11以下	3.5			
12以下	5.5	33		
16以下		24		
19以下		20		
22以下	8	27		
28以下		21		

注(1)配線こう長は、合計電流値の最大値で記載してあります。
(2)室内ユニット接続線は5.5mm²まで使用可能です。8.0mm²以上の配線をご使用なさる場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐してください。
(3)配線こう長は、電圧降下を2％とした場合を示します。上表の配線こう長を超える場合は、内線規程に従い、配線太さを見直してください。

冷暖フリーマルチ（224H, 280H, 560H）の場合

分流コントローラの配線

●本ユニットを冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ（別売品）の据付説明書をご覧ください。

② アドレス設定

（1）自動アドレス設定　（2）手動アドレス設定　（3）リモコンアドレス設定

上記3項目については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。
なお、（3）リモコンアドレス設定については、設定可能な機種と不可能な機種がありますので、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

③ リモコン取付と配線及び機能

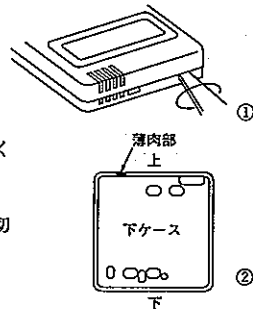
リモコン　リモコンは別売です。

リモコンの据付　お願い　次の位置は避けてください。

1）直射日光の当たる場所　2）発熱器具の近く
3）湿気の多い所・水の掛る所　4）取付面に凸凹がある所

取付要領

露出取付

①リモコンケースをはずしてください。
●リモコン上部の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースをはずします。
②リモコンコードの取出し方向は、上方向のみ可能です。
●リモコン下ケース側の上方薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。
③リモコン下ケースを付属の木ねじ2本で壁に取り付けます。

④リモコンコードを端子台に接続してください。室内機とリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子には極性があるので間違えると運転できません。

端子：Ⓧ赤線、Ⓨ白線、Ⓩ黒線

リモコンコードは、0.3mm²(推奨)～最大0.5mm²以下としてください。また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。
各配線の皮むき長さは下記の通りです。

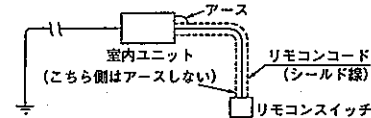
黒：195mm
白：205mm
赤：215mm

⑤上ケースを元通りに取り付けてください。
⑥リモコンコードをコードクランプを使用して壁等に固定します。
⑦室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。
機能の設定の項をご覧ください。

リモコンコードを延長する場合の注意 ▶ 最大総延長600m

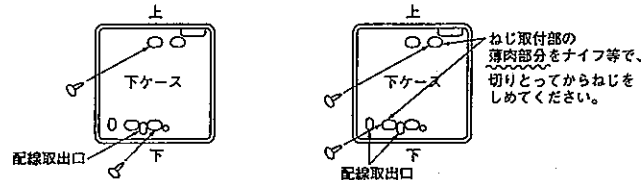
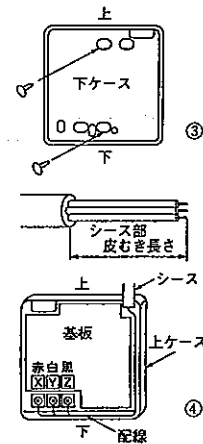
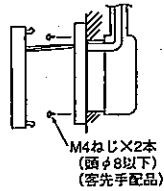
コードは必ずシールド線を使用してください。
●全形式：0.3mm²×3心〔MVVS3C(京阪電線)〕
注(1)延長距離が100mを超える場合は、下記のサイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。

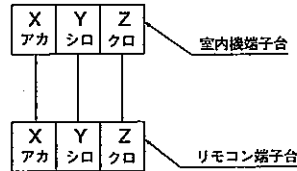
100～200m以内……0.5mm²×3心
300m以内……0.75mm²×3心
400m以内……1.25mm²×3心
600m以内……2.0mm²×3心

●シールド線は必ず片側のみをアースしてください。

埋込取付

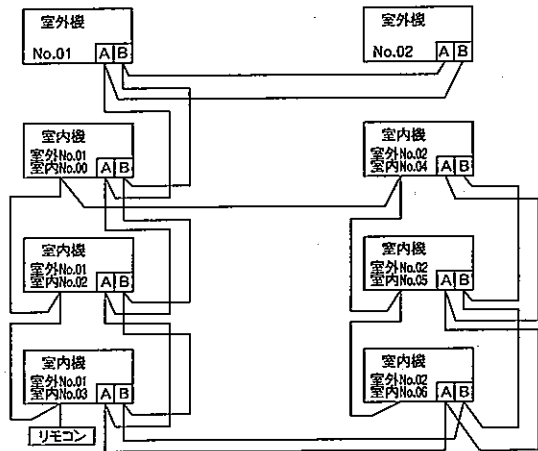
①JISボックスとリモコンコード（延長の場合はシールド線を必ず使用）をあらかじめ埋込んでおきます。
〔使用可能JISボックス〕
●JIS C 8336　1個用スイッチボックス
　　　　　　　2個用スイッチボックス

1個用スイッチボックスの場合

2個用スイッチボックスの場合

②リモコンの上ケースを外してください。
③下ケースをM４ねじ２本（頭φ８以下）を用意してJISボックスに取付けてください。
④リモコンコードをリモコンに接続します。
露出取付の項をご覧ください。
⑤上ケースを元通り下ケースにはめ込み取付完了です。
⑥室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。
機能の設定の項をご覧ください。

リモコンと室内の配線

●リモコン配線は極性があります。
必ず同一端子台No.同士接続してください。

リモコン複数台制御

配線要領

●グループ制御用に各室内機間に渡り配線をします。（３本）
■室内ユニットリモコン用端子台ＸＹＺに、接続してください。なお極性がありますので、同じ端子No.の所へ接続してください。
■配線は0.5mm²以上を使用してください。(配線の引廻しに耐えるもの)
■渡り線、リモートコントローラ配線の総延長は600m以内としてください。
●室内・室外No.を手動アドレス設定にてセットしてください。
■室外機の室外No.設定も必要です。忘れずに設定してください。
●下図の様に室外機が複数台の場合でもリモコン複数台制御可能です。
●１つのリモートコントローラで複数台のユニット(最大16台)をグループ制御できます。
■室内基板上のロータリースイッチSW1、SW2により、リモコン通信アドレスを重複しないように設定してください。

電源投入後、リモコンのエアコンNoを押すと室内機アドレスが表示されますので、▲▼ボタンで接続されている室内機アドレスがリモコンに表示されることを、必ず確認してください。

機能の設定

●リモコン及び室内機の各機能は、接続される室内機により自動設定されます。
（標準的な使い方をする場合は設定の変更はいりません。）
但し、グリル昇降設定と、特別に初期設定を変更する必要がある場合は、設定を変更してください。
設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

工場出荷時、リモコンはグリル昇降無効の設定となっていますので、ラクリーナパネルご使用の場合は、必ずグリル昇降有効の設定が必要です。
設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

各機能の初期設定は下記の通りです。

(1) リモコン機能

機能番号Ⓐ	機能内容Ⓑ	設定内容Ⓒ	初期設定
01	グリル昇降設定	昇降無効	○
		有効50Hz地区	
		有効60Hz地区	
02	自動運転設定	自動運転有効	
		自動運転無効	○
03	温度設定	温度設定有効	○
		温度設定禁止	
04	運転切換	運転切換有効	○
		運転切換禁止	
05	運転/停止	運転/停止有効	○
		運転/停止禁止	
06	風量調整	風量調整有効	※
		風量調整禁止	
07	風向調整	風向調整有効	※
		風向調整禁止	
08	タイマー	タイマー有効	○
		タイマー禁止	
09	リモコンセンサ設定	リモコンセンサ無効	○
		リモコンセンサ有効	
10	停電補償設定	停電補償無効	○
		停電補償有効	
11	換気設定	換気接続なし	○
		換気連動	
		換気非連動	
12	温度範囲設定	表示変更有	○
		表示変更無	
13	室内ファン速調	ファン３速	※
		ファン２速	
		ファン１速	
14	冷専／ヒーポン	ヒーポン	※
		冷専	
15	外部入力設定	個別運転	○
		全台同一運転	
16	エラー表示設定	エラー表示有り	○
		エラー表示無し	
17	ルーバ制御設定	ルーバ４位置停止	○
		ルーバフリー停止	

(2) 室内機能

機能番号Ⓐ	機能内容Ⓑ	設定内容Ⓒ	初期設定
01	高天井設定	標準	○
		高天井１	
03	フィルターサイン設定	表示しない	
		180時間後	
		600時間後	○
		1000時間後	
		1000時間→停止	
04	ルーバ制御設定	ルーバ４位置停止	○
		ルーバフリー停止	
05	外部入力切換	レベル入力	○
		パルス入力	
06	運転許可／禁止	通常運転	○
		有効	
07	暖房室温補正	通常運転	○
		室温補正＋３℃	
08	暖房ファン制御	弱風	
		停止→弱風	○
09	凍結防止温度	2.5℃	
		１℃	○
10	凍結防止制御	ファン制御有効	○
		ファン制御無効	
11	電気集塵機	ファン制御無効	○
		ファン制御有効	
12	加湿器制御	ドレンモータ非連動	○
		ドレンモータ連動	

注１.「※」印の項目の初期設定は、室内機の機種毎に異なり、下記の通りとなります。

FDAS

注1.「※」印の項目の初期設定は、室内機の機種毎に異なり、下記の通りとなります。

機能番号Ⓐ	機能内容Ⓑ	設定内容Ⓒ	初期設定
06	風量調整	風量調整有効	室内ファン風量2、3速の機種
		風量調整禁止	室内ファン風量1速の機種
07	風向調整	風向調整有効	オートスイングルーバ搭載機種
		風向調整禁止	その他
13	室内ファン速調	ファン3速	室内機ファン風量3速の機種
		ファン2速	室内機ファン風量2速の機種
		ファン1速	室内機ファン風量1速の機種
14	冷専/ヒーポン	ヒーポン	ヒーポン機
		冷専	冷専機

注2.室内機に機能がない内容の場合、設定しても室内機は作動しません。
注3.(1)のリモコン機能の⑰ルーバ制御設定を変更する場合は、(2)室内機能の④ルーバ制御設定も変更してください。

④ 制御の切換

□ 囲みが工場出荷時の設定

室内機の制御内容を下記方法にて切換可能です。

スイッチ	設定	内容
SW5-1	ON	ドレンポンプ試運転
	OFF	ドレンポンプ自動
SW5-2	ON	加湿器残留運転　有効
	OFF	加湿器残留運転　無効
SW5-3	ON	外部入力　パルス入力
	OFF	外部入力　レベル入力
SW5-4	ON	緊急停止信号　有効
	OFF	緊急停止信号　無効
SW6-1 SW6-2 SW6-3 SW6-4		機種容量設定
SW9-1 SW9-2		ラクリーナパネル降下長設定
SW9-4	ON	ファン制御　高速(高天井)
	OFF	ファン制御　標準

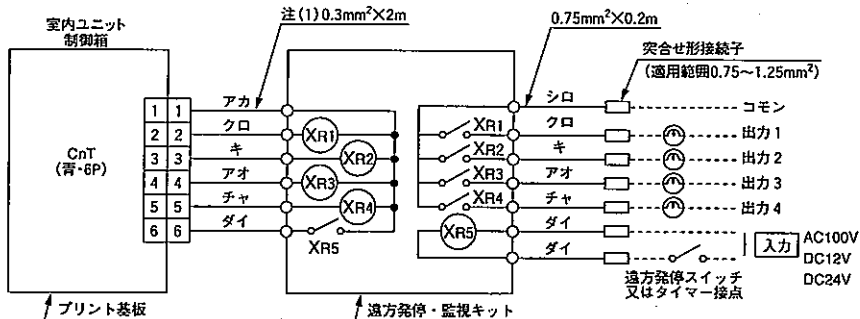
ジャンパ	設定	内容
J1	短絡	フィルタサイン有効
	開放	フィルタサイン無効
J2	短絡	運転制御標準
	開放	運転許可禁止
J3	短絡	暖房サーモOFF制御はJ4による
	開放	暖房サーモOFF時停止
J4	短絡	暖房サーモOFF時間欠運転
	開放	暖房サーモOFF時Lo風量運転
J8	短絡	加湿器ドレンポンプ非連動
	開放	加湿器ドレンポンプ連動

J10・J11 リモコン風量表示の切換　×:開放　○:短絡

記号	設定1	設定2	設定3
J10	○	×	○
J11	○	○	×
風量切換設定	3速(急/強/弱)	2速(急/弱)	1速(風量調整無効)

※風量切換設定の工場出荷時設定は、室内機により異なります。

注)機種によっては、上記制御内容の一部が無い機種もございます。詳細は機種別の結線銘板をご覧ください。

⑤ 室内基板CnTコネクタの機能

注(1) 2mより長くしないでください。

●XR1~4はDC12Vリレー(オムロンLY2F相当品)
●XR5は、DC12,24V又はAC100Vリレー(オムロン製MY2F相当品)
●CnTコネクター(現地側)メーカー、形式

コネクター	モレックス	5264-06
端　　子	モレックス	5263T

●機　能

出力1	エアコン運転出力(エアコンON時XR1=ON)	
出力2	暖房出力	
出力3	サーモON出力(サーモON時XR3=ON)	
出力4	エアコン点検出力(エアコン点検時XR4=ON)	
入力5	出荷時	XR5 OFF⇒ON　エアコンON
		XR5 ON⇒OFF　エアコンOFF
	現地切換(SW5のNo.3をON)	XR5 OFF⇒ONのパルス信号によりON/OFF反転

●冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ(別売品)の据付説明書をご覧ください。
●遠方発停・監視キットを別売品で準備しておりますのでご利用ください。

⑥ ドレンポンプ運転操作

ドレンポンプ運転がリモコン操作により可能です。リモコンを次の手順で操作してください。
1.ドレンポンプ強制運転の開始
①試運転ボタンを3秒以上押します。
「項目◆で選択」→「セットで決定」→「冷房試運転▼」と、表示が切り換わります。
②「冷房試運転▼」の表示の時に、▼ボタンを一度押し、「ドレンポンプ運転◆」を表示させます。
③セットボタンを押すと、ドレンポンプ運転を開始します。
表示:「ドレンポンプ運転」→「セットで停止」
2.ドレンポンプ運転の解除
④セットボタン又は、運転/停止ボタンを押すと、ドレンポンプ強制運転を停止します。
エアコンは停止状態となります。

⑦ 試運転

試運転については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑧ 故障診断方法

故障診断方法については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑨ 工事完了後のチェック項目

□ 電源電圧は本体表示と同じですか。
□ 室外機側でアース工事はされていますか。
□ 電源線の太さは指定の配線と同じですか。
□ 電源線、信号線、リモコン線の接続位置は正しいですか。